

「鉄山染は生きがい」

土曜日のひろば



坂本 キミさん (76歳・萩牛)

《251》

☆：若いころは、養蚕と炭を焼いで暮らしますたあ。☆：戦争も経験していますんが、食べる物がなくて、糠にすつかり実が入っていない麦で飢えをしのいだのを忘れることができません。☆：ほがにもいろいろ苦勞はありますたつたども…。☆：今はよい時代で、デイサービスを楽しみにしたり、研究グループでやっている鉄山染を生きがいにしたり。☆：仲間んどうといろいろ工夫しながら染めあげていく喜びは言い表せれない(笑)。☆：体に痛いどころがあつても鉄山染のことを考えれば、畑仕事もおもしろい。☆：ほんだすかいに、鉄山染を自由にさせてけん家族に感謝。☆：何より、鉄山染に導いてくれた村当局には心からお礼申しあげますん…。

「普代の植物散歩」⑦

ベニバナイチヤクソウ (いちやくそう科)

大森 竹之助さん (七〇)

久慈市在住



ベニバナイチヤクソウとは「紅花一葉草」と書き、理由は葉草の中でも一番効き目があるということにあるらしい。

ベニバナシャクナゲ

久慈市在住の大森 竹之助さん(七〇)が、ベニバナイチヤクソウについて語ります。この花は初夏から夏に咲く花といわれるが、普代村では五月の下旬から残暑のころまで、山地などに見られる。晩春の頃開花する花はたくさんあるので、ベニバナイチヤクソウに気をとられる人は多いかもしれない。

葉草となる植物がたくさんある中で、特にイチヤクソウとずばりの名は、他の植物とは待遇が違い、いぶん名誉なことだろうと、勝手に思いこんでしまう。

ない、特に車で通行となれば、目にとまることはないであろう。でもゆつくり山道を歩いてみれば、林の下などに「なんだろう、きれいだな」とすぐ気づく。だが育っている場所は多いわけではない、だから探しはぐねるところもある、でも



鳥居地区 (写真：大森さん提供)

にはあるもので、数株以上まとまって咲いているのに出合うこともある。高さは二十センチもあるのか、一本の直立した茎に、薄紅色の小さな「球」を二十個もつけて、やがて濃い紅色の花を開く。数枚の厚い葉が根ざわから四方にでて、冬でも枯れない常緑の多年草である。葉をもんで汁をだし止血のため傷口に塗るとか、乾燥したものを煎じて脚気薬・利尿薬として利用した。

川柳 文芸の世界

川柳 (575)

川柳愛好会 七月例会作品

普段着のようなくらして恙なし
絶景をひとり占めするこの至福
無造作に束ねた髪が美しい
待女

三上 翠香
趣味もって夢もち続くこの余生
携帯電話ドアの向こうでひそひそと
高原で朝日拜んで今日の幸

深渡 汀女
普段着で適度な風に満足す
無造作に置いて立ち去る贈り物
追憶のドアの向こうの人を恋う

太長根英子
父母が逝き家長になってわかる悔い
普段着にするには背広肩が凝る
夢のよな話にまずは頬つねり

加差野静浪
高原に立てば神祕の風と逢う
普段着に着替えて出駆けるカントリー
ささやか希い一つの夢の夢